



2022年7月15日

各位

会社名 株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 白川 篤典
(東証スタンダード・コード 2769)
問合せ先 常務取締役 佐々木 敏夫
電話 052-769-1150

2022年5月期通期業績と前期実績の差異 及び特別損失（減損損失）の計上に関するお知らせ

2022年5月期（2021年6月1日～2022年5月31日）通期連結会計期間において、業績予想の開示はしていませんが、当該通期業績と前期実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。また、併せて特別損失（減損損失）の計上に関するお知らせいたします。

記

1. 2022年5月期通期業績と前期実績値の差異

(1) 連結業績と前期実績値の差異（2021年6月1日～2022年5月31日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式 に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値（A）	28,293	29	48	△23	円 銭 △18.24
今期実績値（B）	26,758	351	420	116	△0.50
増減額（B－A）	△1,534	322	372	139	
増減率（％）	△5.4%	-	771.4%	-	

(2) 個別業績と前期実績値の差異（2021年6月1日～2022年5月31日）（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値（A）	21,748	340	335	円 銭 27.41
今期実績値（B）	19,927	198	△1,225	△171.39
増減額（B－A）	△1,820	△141	△1,560	
増減率（％）	△8.4%	△41.6%	-	

2. 2022年5月期通期業績と前期実績値の差異の理由

2022年5月期（2021年6月1日～2022年5月31日）の連結業績におきましては、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首より適用し、約束

した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。この適用の結果主に売上高に大きく影響を受け減少しております。営業利益、経常利益及び親会社に帰属する当期純利益につきましては、仕入のコントロール並びに各種経費の削減により前期実績値を大きく上回る結果となりました。

2022年5月期（2021年6月1日～2022年5月31日）の個別業績におきましては、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を期首より適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。この適用の結果主に売上高に大きく影響を受け減少しております。当期純利益につきましては、販売子会社である株式会社ヴィレッジヴァンガードに対する長期貸付金を貸倒引当金繰入に計上したこと等により前期実績値を大きく下回る結果となりました。

3. 特別損失の計上について

当社において店舗展開する商業施設の閉鎖および出店契約期間の満了、ならびに店舗損益の悪化に伴い資産グループでの固定資産簿価を回収できないと判断した為、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき固定資産の減損損失 110 百万円を計上いたしました。

なお、本件につきましては、本日開示いたしました「2022年5月期決算短信月期決算短信〔日本基準〕（連結）」に反映しております。

以 上